

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300261		
法人名	有限会社 川合		
事業所名	グループホーム 和 南ユニット		
所在地	静岡県浜松市浜北区東美蘭 66		
自己評価作成日	平成25年2月27日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JizyosyoCd=2278300261-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成25年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共にささえあい その人らしく 安心した生活を」の理念のもと、利用者が家族と離れても自分らしく安心して暮らし続けることができるよう一人ひとりの思いや状況を理解し、家族の思いを含めたその人らしい生活を職員全体で考え、さりげない支援を行なっている。また、利用者の高齢化によりADLは下がってきてはいるが、医療機関と連携し利用者家族と協力しながら最期までゆったりと過ごしていただけるよう「一人ひとりに寄り添うケア」を実践し運営に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

第二東名の開通で、浜松浜北インターと浜松インターのちょうど真ん中に位置することとなり、車の利便性の高い地域に事業所はあります。利用者が自分らしく過ごせるよう家族を交えて考えることを旨とし、「今、その人が何に困っているか」に着目することで、利用者本人に合った支援というものを職員間で日常的に話し合っています。日頃の姿勢は看取りへの取組に集約されていて、本訪問直前の1月に2名、2月に1名の御見送りをおこなっています。看取りは、精神的にも肉体的にも職員負担が大きく、いずれの事業所もメンタルケアに力を入れています。和(やわらぎ)では職員が誇りをもって取組んでおり「いい看取りができた」との言葉に意識の高さが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を掲示いつでも確認できるようにしており、また職員の会議時に読み上げ、事業所のケアの基本が理念であることを共有し実践につなげている。	理念は毎月の全体会議で読み上げています。手間や労力を惜まず、利用者の立場になってどうしたらいいかを考え行動している様子から、管理者は理念の浸透を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の中学生の福祉体験を受け入れたり、保育園の園児さんといっしょに行事を行い、交流を深めている。また、地域の中の事業所としてお祭りや防災訓練など自治会の行事にも参加している。	自治会に加入し、草取り作業には代表者自ら出向き、親交を深めています。保育園児が来訪することは恒例になっていて、今年は「ありがとうペンダント」をプレゼントされ、楽しい行事となっています。ADLの低下で参加に至ることは少なくなりましたが、地域行事の日程は常に把握しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のお便りを自治会を通じ回覧し、地域の方に事業所の様子、認知症や介護についての啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、事業所の取り組みや現状を報告し、意見を聞きサービスの向上に活かしている。また、交流の場にもなっており情報交換や意見交換が活発に行われ、利用者の生活の理解が深まっている。	家族を中心に多様なメンバーの参加を得て、隔月開催が叶っています。空室情報を投げかけたところ、地域包括支援センター職員の「もう少し広範囲を対象にしてみても」との提案から満床となった例など、運営に役立つ内容となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者に運営推進会議に出席していただき、事業所の取り組みに関する意見をいただいたり、市からの情報をいただいている。また、区内の介護事業所の会合に積極的に参加し市の取り組みにも協力し、良好な関係を築いている。	区役所、また地域包括支援センターからも職員が運営推進会議に参加してくれています。事業所も、区役所主催のグループホームの連携をとる会合に積極的に参加し、情報の共有化に努めています。そのため、行政担当者とは顔なじみで、相談しやすい関係にあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしており、社内研修において学ぶ機会を設け「身体拘束はしない」という意識を職員全体で共有し、日常的に身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロ宣言をしており、内部研修を年1回行っています。会議の中でも随時身体拘束について取り上げていて、事例検討を通じて具体的に理解、是正できるようにしています。また、看護師など専門職を交えて検討し、多面的な意見を取り入れています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で高齢者虐待について勉強会を行い意識向上に努め、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように職員がお互いに注意を呼びかけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学んではいるが、現在必要な利用者はおらず、今後に備えさらに理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する方針や重度化について不安のないよう十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には訪問時やお便りにて利用者の様子を伝え、家族会や訪問時に要望を聞くよう努めている。出された要望は会議で話し合い運営に反映させている。	事業所のたより(通信)と、個人向けのお手紙を毎月交互に家族へ送っています。利用者本人に係る要望はどんなに些細なことでも家族の意向に従うように努めていて、昨年度家族から要望のあった「職員の顔と名前の一致」についても速やかに、写真掲示に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談、アンケートなどで職員に意見や提案を聞く機会を設けている。また、管理者からも声掛けし、常に職員からの相談を受け意見を反映させている。	職員アンケートを年1回、個人面談を年2回行い、管理者は職員の話最後まで聴くことを心がけています。開設当初からの職員が3名おり、3年～6年の勤務者が中心で、定着率が高く、また職員の向上心が高いことが自慢です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁にケアの現場を見て職員の業務や悩みを把握している。また、親睦会の開催、永年勤続表彰、資格取得支援をするなど職員が意欲を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を考慮し、外部の研修を受けられるよう計画している。また、研修報告を勉強会にて発表し、全職員が共有し全体のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じ、他施設の方と情報交換をし、サービスの向上につながるよう取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人と面接をし、心身の状態や困っていること、要望などを聞き、本人が安心していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、家族が困っていることや不安なこと、要望などをよく聞き、事業所としてどのような対応ができるか話し合い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況などを確認し話し合う中で必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはなるべくいっしょに行なうよう心がけている。利用者から教えていただいたり、助けていただくことも多く、事業所の理念にもある「共にささえあう」関係を築くよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお手紙で利用者の様子や職員が感じたことを家族に伝え、本人の思いを共有し共にささえる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや馴染みの美容院やスーパーなど利用者の思いがある場所へ行き、関係が途切れないようにしている。また、遠方の家族にも写真を添えたお便りにて様子を伝えている。	喫茶店やスーパー、墓参りなど、行きたいところへは職員が付き添うことで出かけることができています。近所にも友人がいて、まるで我が家のように居室で2人で寛ぐことが間々あります。新聞を読むことを続ける人もいたり、主婦さんながらにチラシの中から買い物情報を提供してくれる利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員が共有し、孤立せず、うまく関わり合えるよう職員が間に入って支えるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた際には、当事業所での生活の状況など情報提供し、本人がこれまでの生活を継続できるようフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情から利用者の思いを汲み取るよう心がけ、把握するよう努めている。	口がよく動いて食事ができているときは「好きなのかな」と推量したり、少量での提供からおかわりとなったとき表情が明るくなったため、おかわりできるような量を調整するなど、熟練者が多いため汲み取ることができています。訪問時の食事のコロッケにも里もが混ぜてあり、飲み込みやすくする工夫がみられました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの生活歴や好きなものなどを聞き、その人をより理解することにより、その人らしい暮らしを続けられるような支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを理解し、本人のできることでできないことを把握し、できることを継続できるよう努めている。また、心身状態の変化は記録や申し送りにて職員が共有し、把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングを行い、カンファレンスで職員の意見を出し合っている。家族の思いや看護師の意見を織り交ぜて計画作成担当者が介護計画を作成している。	担当制を敷いていますが、カンファレンスで全職員の意見を出し合ってモニタリングをおこなっています。ケアマネジャーと計画作成担当者が家族の想いや看護師の視点を織り交ぜてプランを作成しています。ただし、利用者の心身状態を最優先とし、家族からの要望については調整させてもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や本人の思いが伝わる言葉や、ケアプランに基づいたケアの実践を個別に記録し、職員間で情報を共有し毎日のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の思い、その時の状況に応じて通院や買い物、散髪、墓参りなど必要とされる支援には柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安心して地域の中で暮らし続けたいけるよう、運営推進会議にて自治会長や民生委員と意見を交換し、ケアに反映させている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が事業所の協力医に変更し、週1回の医師の往診と看護師の訪問が毎日あり安心できる連携が整っている。また、家族と協力し眼科や歯科医院、精神科など専門医への受診もできるよう支援している。	利用者全員が事業所の協力医に変更しています。週1日の往診があり、24時間オンコールのため、安心の環境にあります。また、看護師については毎日訪問があり、日常的な健康管理のほか、未病や看取りなど総合的に支援してもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で利用者の身体状況に変化があればすぐに看護師に相談し、適切な医療を受けられるように支援している。また、健康管理の面でも相談し、助言を得られる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には本人を支援する情報を提供し、家族と協力し回復状況など情報交換をしながらスムーズに退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の指針を家族に説明し、利用者や家族の意向を確認している。また、重度化した場合、再度意向を確認し、納得した上で終末を迎えられるよう職員に何が話せるか話し合い、医師の指導を受け看護師と連携しチームで支援に取り組んでいる。	家族には重度化および救急の場合について、アンケートをとっています。看取りについては、プロ意識の高い看護師に支えられ、ひたむきな職員の取組がみられます。看取りの機会を追いごとに、職員の意識や技術の向上は目を見張るばかりで、管理者も頼もしく感じています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変に備え、勉強会を開催し職員に周知徹底を図りマニュアルを作成し、緊急時にも適切な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、定期的に訓練を行い利用者が安全に避難できる方法を身につけるよう努めている。また、運営推進会議にて災害時の対策について話し合い、地域の協力も得られるよう体制を築いている。	四半期に1回、防災訓練をおこない、内1回は消防署の直接指導を仰ぎました。事前告知なしで訓練をおこなうこともあり、実践的な訓練が叶っています。本年は、停電不安を解消するため、発電機を購入して、防災への意識の高さが視えます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬意を払い、一人ひとりの人格を尊重しながら接している。また、その方が理解しやすい言葉掛けや対応をするよう努めている。	職員の大半が一人ひとりに合わせ、尊重した行動がとれていて、画一的ではありません。また、掲示物ひとつをとっても、利用者の視線の高さを意識し、目に入りやすいよう工夫されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを会話の中から汲み取ったり、表情から読み取ったりして本人が決定できるよう声掛けをし、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本なおおその日課はあるが、一人ひとりのペースや希望を優先した支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には本人の意思にまかせており、自己決定しにくい方には選択していただいたり本人の情報から職員が考え支援し、その人らしさが失われないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一人ひとりの摂取状態を考え、調理師が作っている。職員も同じメニューをいっしょに食べ、後片付けを利用者と職員がいっしょに手際よくしている。また、誕生日には本人の好みのものをメニューにしている。	専属の調理師が栄養バランスなど検討したうえで調理しているため、食事がおいしく、残す人がみられません。外出できない人もいるため、行事食には一層腕を振っています。回想につながることもあり、昔懐かしい食事メニューも最近取り組み始めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリー摂取量を考慮した献立を作っている。また、一人ひとりの食事量・水分量を記録し、脱水予防などの健康状態にも留意した支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせ、声掛けや見守りをして促している。できない方にはお茶に浸したガーゼを使用し口腔ケアを行い、食べ続けることができるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをつかみトイレ誘導をし、トイレでの排泄を促している。また、自立に向けて日中は紙パンツから布パンツに替えるなど紙パンツの使用を減らすよう努めている。	「できるだけトイレで」を方針として、立位が保てれば車いすの利用者にもトイレでおこなってもらいます。褥瘡緩和のために、トイレにはホットタオルを常備しています。リハビリはまとめて事業所で購入し、種類や大きさなど、本人に合ったものが提供されるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況を記録し、牛乳やヤクルト、ヨーグルトを提供したり十分な水分補給、適度な運動を働きかけ、その方に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めず、利用者の希望する時間での入浴に応じている。その方の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援をしている。また、入浴が困難な方には清拭をし清潔を保ち、気分転換を図れるよう支援をしている。	午前から夕方にかけて、好みの時間に入れるようにしています。入浴は2日に1回をめやすとしていますが、希望があれば毎日入れます。ゆず湯など季節を感じることができるお風呂も提供していて、気持ちよさから鼻歌を唄う利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が使い慣れた寝具等を使用し、清潔保持にも十分注意している。また、エアコンや加湿器を使い室内の温度調節にも気をくばり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方カードをファイルし、用法や容量について理解している。また、症状に変化があれば医療機関に伝え、その都度対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や本人の力を十分に発揮していただけるよう、できそうなことをお願いし役割があることを実感できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って買い物やドライブなど外出できるよう支援している。また、家族といっしょに出掛けられるよう支援している。	加齢によるADL低下もあり、状態がまちまちのため、職員が個別に散歩や外気浴に取り組んでいます。そのため、散歩で想いの把握ができることもあります。遠出外出は恒例になっているものがほとんどで、今月もお花見の予定があります。	外出できにくくなっている人のためにも、地域の祭りなどのDVD鑑賞など、代替となる楽しみへの検討を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方には、少額であるが財布に入れて所持していただいている。できない方には職員が行うが、買い物をする楽しさは味わえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができる利用者はいないが、本人の希望があれば状況に応じ電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に季節感のある装飾をしたり、利用者といっしょに選んだ行事や日常の写真を飾るなどして生活感を感じ心地よく過ごせるよう工夫をしている。	朝の掃除は利用者と職員とで取り組み、換気も同時におこなっています。日向ぼっこができるよう、日の差し込む東側の窓付近にソファを置く工夫もみられます。加湿器はありますが、和室に洗濯物を干すことで湿度調整をおこなっています。掲示係がいるためか、壁の掲示は季節のものなどで華やいでいました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のところにソファを置き、独りになられたり、利用者同士で話ができて落ち着いて過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は利用者と家族が相談し、使い慣れた物を置いている。また、ベッドの習慣がない利用者にはマットを敷いて対応したり、加湿器を置くなど体調に配慮し居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	洋室ですが、ウレタンマットを敷いて布団が馴染むという人の要望にも応えています。押入れと一緒に収納しているクローゼットがありますが、それぞれが使い慣れたタンスやチェストを持ち込んでいます。	ADLが下がると使い慣れたものでも使わなくなったりがあります。使用状況を確認することでアセスメントがさらに進むことを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて目印をつけたり、わかりやすく表示したり、危険な箇所は職員が介助し安全で自立した生活が送られるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300261		
法人名	有限会社 川合		
事業所名	グループホーム 和 北ユニット		
所在地	静岡県浜松市浜北区東美蘭 66		
自己評価作成日	平成25年2月27日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JizyosyoCd=2278300261-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成25年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共にささえあい その人らしく 安心した生活を」の理念のもと、利用者が家族と離れても自分らしく安心して暮らし続けることができるよう一人ひとりの思いや状況を理解し、家族の思いを含めたその人らしい生活を職員全体で考え、さりげない支援を行なっている。また、利用者の高齢化によりADLは下がってきてはいるが、医療機関と連携し利用者家族と協力しながら最期までゆったりと過ごしていただけるよう「一人ひとりに寄り添うケア」を実践し運営に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

第二東名の開通で、浜松浜北インターと浜松インターのちょうど真ん中に位置することとなり、車の利便性の高い地域に事業所はあります。利用者が自分らしく過ごせるよう家族を交えて考えることを旨とし、「今、その人が何に困っているか」に着目することで、利用者本人に合った支援というものを職員間で日常的に話し合っています。日頃の姿勢は看取りへの取組に集約されていて、本訪問直前の1月に2名、2月に1名の御見送りをおこなっています。看取りは、精神的にも肉体的にも職員負担が大きく、いずれの事業所もメンタルケアに力を入れています。和(やわらぎ)では職員が誇りをもって取組んでおり「いい看取りができた」との言葉に意識の高さが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を掲示いつでも確認できるようにしており、また職員の会議時に読み上げ、事業所のケアの基本が理念であることを共有し実践につなげている。	理念は毎月の全体会議で読み上げています。手間や労力を惜まず、利用者の立場になってどうしたらいいかを考え行動している様子から、管理者は理念の浸透を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の中学生の福祉体験を受け入れたり、保育園の園児さんといっしょに行事を行い、交流を深めている。また、地域の中の事業所としてお祭りや防災訓練など自治会の行事にも参加している。	自治会に加入し、草取り作業には代表者自ら出向き、親交を深めています。保育園児が来訪することは恒例になっていて、今年は「ありがとうペンダント」をプレゼントされ、楽しい行事となっています。ADLの低下で参加に至ることは少なくなりましたが、地域行事の日程は常に把握しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のお便りを自治会を通じ回覧し、地域の方に事業所の様子、認知症や介護についての啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、事業所の取り組みや現状を報告し、意見を聞きサービスの向上に活かしている。また、交流の場にもなっており情報交換や意見交換が活発に行われ、利用者の生活の理解が深まっている。	家族を中心に多様なメンバーの参加を得て、隔月開催が叶っています。空室情報を投げかけたところ、地域包括支援センター職員の「もう少し広範囲を対象にしてみてもいい」との提案から満床となった例など、運営に役立つ内容となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者に運営推進会議に出席していただき、事業所の取り組みに関する意見をいただいたり、市からの情報をいただいている。また、区内の介護事業所の会合に積極的に参加し市の取り組みにも協力し、良好な関係を築いている。	区役所、また地域包括支援センターからも職員が運営推進会議に参加してくれています。事業所も、区役所主催のグループホームの連携をとる会合に積極的に参加し、情報の共有化に努めています。そのため、行政担当者とは顔なじみで、相談しやすい関係にあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしており、社内研修において学ぶ機会を設け「身体拘束はしない」という意識を職員全体で共有し、日常的に身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロ宣言をしており、内部研修を年1回行っています。会議の中でも随時身体拘束について取り上げていて、事例検討を通じて具体的に理解、是正できるようにしています。また、看護師など専門職を交えて検討し、多面的な意見を取り入れています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で高齢者虐待について勉強会を行い意識向上に努め、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように職員がお互いに注意を呼びかけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学んではいるが、現在必要な利用者はおらず、今後に備えさらに理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する方針や重度化について不安のないよう十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には訪問時やお便りにて利用者の様子を伝え、家族会や訪問時に要望を聞くよう努めている。出された要望は会議で話し合い運営に反映させている。	事業所のたより(通信)と、個人向けのお手紙を毎月交互に家族へ送っています。利用者本人に係る要望はどんなに些細なことでも家族の意向に従うように努めていて、昨年度家族から要望のあった「職員の顔と名前の一致」についても速やかに、写真掲示に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談、アンケートなどで職員に意見や提案を聞く機会を設けている。また、管理者からも声掛けし、常に職員からの相談を受け意見を反映させている。	職員アンケートを年1回、個人面談を年2回行い、管理者は職員の話最後まで聴くことを心がけています。開設当初からの職員が3名おり、3年～6年の勤務者が中心で、定着率が高く、また職員の向上心が高いことが自慢です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁にケアの現場を見て職員の業務や悩みを把握している。また、親睦会の開催、永年勤続表彰、資格取得支援をするなど職員が意欲を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を考慮し、外部の研修を受けられるよう計画している。また、研修報告を勉強会にて発表し、全職員が共有し全体のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じ、他施設の方と情報交換をし、サービスの向上につながるよう取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人と面接をし、心身の状態や困っていること、要望などを聞き、本人が安心していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、家族が困っていることや不安なこと、要望などをよく聞き、事業所としてどのような対応ができるか話し合い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況などを確認し話し合う中で必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはなるべくいっしょに行なうよう心がけている。利用者から教えていただいたり、助けていただくことも多く、事業所の理念にもある「共にささえあう」関係を築くよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお手紙で利用者の様子や職員が感じたことを家族に伝え、本人の思いを共有し共にささえる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや馴染みの美容院やスーパーなど利用者の思いがある場所へ行き、関係が途切れないようにしている。また、遠方の家族にも写真を添えたお便りにて様子を伝えている。	喫茶店やスーパー、墓参りなど、行きたいところへは職員が付き添うことで出かけることができています。近所にも友人がいて、まるで我が家のように居室で2人で寛ぐことが間々あります。新聞を読むことを続ける人もいたり、主婦さんながらにチラシの中から買い物情報を提供してくれる利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員が共有し、孤立せず、うまく関わり合えるよう職員が間に入って支えるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた際には、当事業所での生活の状況など情報提供し、本人がこれまでの生活を継続できるようフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情から利用者の思いを汲み取るよう心がけ、把握するよう努めている。	口がよく動いて食事ができているときは「好きなのかな」と推量したり、少量での提供からおかわりとなったとき表情が明るくなったため、おかわりできるような量を調整するなど、熟練者が多いため汲み取ることができています。訪問時の食事のコロッケにも里いもが混ぜてあり、飲み込みやすくする工夫がみられました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの生活歴や好きなものなどを聞き、その人をより理解することにより、その人らしい暮らしを続けられるような支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを理解し、本人のできることでできないことを把握し、できることを継続できるよう努めている。また、心身状態の変化は記録や申し送りにて職員が共有し、把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングを行い、カンファレンスで職員の意見を出し合っている。家族の思いや看護師の意見を織り交ぜて計画作成担当者が介護計画を作成している。	担当制を敷いていますが、カンファレンスで全職員の意見を出し合ってモニタリングをおこなっています。ケアマネジャーと計画作成担当者が家族の想いや看護師の視点を織り交ぜてプランを作成しています。ただし、利用者の心身状態を最優先とし、家族からの要望については調整させてもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や本人の思いが伝わる言葉や、ケアプランに基づいたケアの実践を個別に記録し、職員間で情報を共有し毎日のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の思い、その時の状況に応じて通院や買い物、散髪、墓参りなど必要とされる支援には柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安心して地域の中で暮らし続けたいけるよう、運営推進会議にて自治会長や民生委員と意見を交換し、ケアに反映させている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が事業所の協力医に変更し、週1回の医師の往診と看護師の訪問が毎日あり安心できる連携が整っている。また、家族と協力し眼科や歯科医院、精神科など専門医への受診もできるよう支援している。	利用者全員が事業所の協力医に変更しています。週1日の往診があり、24時間オンコールのため、安心の環境にあります。また、看護師については毎日訪問があり、日常的な健康管理のほか、未病や看取りなど総合的に支援してもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で利用者の身体状況に変化があればすぐに看護師に相談し、適切な医療を受けられるように支援している。また、健康管理の面でも相談し、助言を得られる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には本人を支援する情報を提供し、家族と協力し回復状況など情報交換をしながらスムーズに退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の指針を家族に説明し、利用者や家族の意向を確認している。また、重度化した場合、再度意向を確認し、納得した上で終末が迎えられよう職員に何ができるか話し合い、医師の指導を受け看護師と連携しチームで支援に取り組んでいる。	家族には重度化および救急の場合について、アンケートをとっています。看取りについては、プロ意識の高い看護師に支えられ、ひたむきな職員の取組がみられます。看取りの機会を追究ごとに、職員の意識や技術の向上は目を見張るばかりで、管理者も頼もしく感じています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変に備え、勉強会を開催し職員に周知徹底を図りマニュアルを作成し、緊急時にも適切な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、定期的に訓練を行い利用者が安全に避難できる方法を身につけるよう努めている。また、運営推進会議にて災害時の対策について話し合い、地域の協力も得られるよう体制を築いている。	四半期に1回、防災訓練をおこない、内1回は消防署の直接指導を仰ぎました。事前告知なしで訓練をおこなうこともあり、実践的な訓練が叶っています。本年は、停電不安を解消するため、発電機を購入して、防災への意識の高さが視えます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬意を払い、一人ひとりの人格を尊重しながら接している。また、その方が理解しやすい言葉掛けや対応をするよう努めている。	職員の大半が一人ひとりに合わせ、尊重した行動がとれていて、画一的ではありません。また、掲示物ひとつをとっても、利用者の視線の高さを意識し、目に入りやすいよう工夫されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを会話の中から汲み取ったり、表情から読み取ったりして本人が決定できるよう声掛けをし、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本なおおその日課はあるが、一人ひとりのペースや希望を優先した支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には本人の意思にまかせており、自己決定しにくい方には選択していただいたり本人の情報から職員が考え支援し、その人らしさが失われないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一人ひとりの摂取状態を考え、調理師が作っている。職員も同じメニューをいっしょに食べ、後片付けを利用者と職員がいっしょに手際よくしている。また、誕生日には本人の好みのものをメニューにしている。	専属の調理師が栄養バランスなど検討したうえで調理しているため、食事がおいしく、残す人がみられません。外出できない人もいるため、行事食には一層腕を振っています。回想につながることもあり、昔懐かしい食事メニューも最近取り組み始めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリー摂取量を考慮した献立を作っている。また、一人ひとりの食事量・水分量を記録し、脱水予防などの健康状態にも留意した支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせ、声掛けや見守りをして促している。できない方にはお茶に浸したガーゼを使用し口腔ケアを行い、食べ続けることができるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをつかみトイレ誘導をし、トイレでの排泄を促している。また、自立に向けて日中は紙パンツから布パンツに替えるなど紙パンツの使用を減らすよう努めている。	「できるだけトイレで」を方針として、立位が保てれば車いすの利用者にもトイレでおこなってもらいます。褥瘡緩和のために、トイレにはホットタオルを常備しています。リハビリはまとめて事業所で購入し、種類や大きさなど、本人に合ったものが提供されるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況を記録し、牛乳やヤクルト、ヨーグルトを提供したり十分な水分補給、適度な運動を働きかけ、その方に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めず、利用者の希望する時間での入浴に応じている。その方の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援をしている。また、入浴が困難な方には清拭をし清潔を保ち、気分転換を図れるよう支援をしている。	午前から夕方にかけて、好みの時間に入れるようにしています。入浴は2日に1回をめやすとしていますが、希望があれば毎日入れます。ゆず湯など季節を感じることができるお風呂も提供していて、気持ちよさから鼻歌を唄う利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が使い慣れた寝具等を使用し、清潔保持にも十分注意している。また、エアコンや加湿器を使い室内の温度調節にも気をくばり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方カードをファイルし、用法や容量について理解している。また、症状に変化があれば医療機関に伝え、その都度対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や本人の力を十分に発揮していただけるよう、できそうなことをお願いし役割があることを実感できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って買い物やドライブなど外出できるよう支援している。また、家族といっしょに出掛けられるよう支援している。	加齢によるADL低下もあり、状態がまちまちのため、職員が個別に散歩や外気浴に取り組んでいます。そのため、散歩で想いの把握ができることもあります。遠出外出は恒例になっているものがほとんどで、今月もお花見の予定があります。	外出できにくくなっている人のためにも、地域の祭りなどのDVD鑑賞など、代替となる楽しみへの検討を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方には、少額であるが財布に入れて所持していただいている。できない方には職員が行うが、買い物をする楽しさは味わえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができる利用者はいないが、本人の希望があれば状況に応じ電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に季節感のある装飾をしたり、利用者といっしょに選んだ行事や日常の写真を飾るなどして生活感を感じ心地よく過ごせるよう工夫をしている。	朝の掃除は利用者と職員とで取り組み、換気も同時におこなっています。日向ぼっこができるよう、日の差し込む東側の窓付近にソファを置く工夫もみられます。加湿器はありますが、和室に洗濯物を干すことで湿度調整をおこなっています。掲示係がいるためか、壁の掲示は季節のものなどで華やいでいました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のところにソファを置き、独りになられたり、利用者同士で話ができて落ち着いて過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は利用者と家族が相談し、使い慣れた物を置いている。また、ベッドの習慣がない利用者にはマットを敷いて対応したり、加湿器を置くなど体調に配慮し居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	洋室ですが、ウレタンマットを敷いて布団が馴染むという人の要望にも応えています。押入れと一緒に収納しているクローゼットがありますが、それぞれが使い慣れたタンスやチェストを持ち込んでいます。	ADLが下がると使い慣れたものでも使わなくなったりがあります。使用状況を確認することでアセスメントがさらに進むことを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて目印をつけたり、わかりやすく表示したり、危険な箇所は職員が介助し安全で自立した生活が送られるよう工夫している。		